

正月の童謡

村尾節三述

正月の来るや、兒童等は年中の快樂を、一時に集めたらん心ちして、戸外に室内に活動して嬉戲せり、此間愛らしき口より謠はる、歌謠甚だ多し、正月を主題とせるものに、

寝るめも眠ないで、待つたお正月来て嬉しいな、門に松竹梅の花(信濃)

待ちくし正月の来りし満足見るが如し

正月さんとこまでいらした、山のころく橋の下までいらした、御土産はなんやつた、榎や勝栗、密柑、こじ、たちばな。

犬のふんだ年餅、猫のふんだ粥餅、あまの裏の

串柿(加賀金澤)

問答體にしたるなり。

目出度目出度な、門に松竹ご萬歳(信濃)

お正月は松竹しめかざり、年始の御祝儀と年玉

なげこんだ、さいざうは、そーいつてまじめ顔、萬歳はおちやらかほんのまじめ顔して、とつびが、びいく(越後)

新春の狀況を謠へるなり。

お正月はよいもんぢや、油のやうな酒呑んで、

木ッ葉のやうな餅食つて、雪のやうな飯まくつて、

これでも父ちちさん正月か(武藏)

お正月はよいものぞ、紅い衣裳べきて羽子ついて

雪より白い飯またべて、下駄の齒の様な餅たべて

天王様(津島神社)へまゐるかへ(伊勢)

お正月は嬉しいな、赤い衣裳べきて羽子ついて、

毬ついで、雙六遊びに、紙かけ針打ち、家へ歸

れば、赤い魚に米の飯(信濃)

兒童の快樂の一端を述べたるにて飲酒の事は大人

のなすを見て云へるならん、平和に満てる童謡を

聞くも新春の逸興ならずや。